

記入要領（【記入例】参照）

「履歴書」は丁寧に扱うとともに、P C等で入力の上プリントアウトするか楷書で鮮明に（黒インクで）ご記入ください。履歴は学歴、職歴の開始と終了をもれなく記入してください。「研究業績」用紙は罫線入りの様式と罫線なしの様式がありますが、どちらかの様式でご提出ください。

「履歴書」は、以下の要領にてご記入ください。

①年号の表記

年号はすべて西暦で表示願います。

②「氏名」欄

㊦印鑑を押印願います。（電子印不可）

印鑑をお持ちでない場合は、必ず直筆にて氏名を記入いただき、捺印欄にサインをしてください。

㊧外国人の方の場合の表記方法

- 1) 「氏名」欄は、母国語または英語で姓名を記入し、「フリガナ」欄はカタカナでご記入ください。
- 2) 氏名は姓の欄にファミリーネーム、名の欄にファーストネーム ミドルネームの順に記入してください。ミドルネームを省略する場合は、ピリオド [.] を使用してください。

（例）ジョン F. ケネディ

（姓）ケネディ （名）ジョン F.

㊨通称名を使用する場合は、『通称名（本名）』で表記してください。

㊩英字氏名はパスポートと同じ表記を記入してください。日本人も必ず記入してください。（本学で登録できるのはアルファベットのみで、Á á Â À Å Ã Ä äなどは使用できません）

③写真貼付

履歴書には、写真の貼付をお願いいたします。英文・和文（英文の翻訳）両方の履歴書を提出される場合、写真は和文履歴書に貼付してください。

④国籍欄

国籍(国名)をご記入ください。

⑤「学歴」欄

㊪高等学校の学歴は、最終学歴が大学卒業以上の場合は省略いただいて結構です。

㊫入学、卒業・修了等の年月日を正確にご記入ください。

早稲田大学の場合、入学は4月1日付で、卒業・修了は、両高等学院が3月31日付、学部は1953年より3月15日付（1969年は、一・二文、教育、理工、社会学は25日付）、大学院修士課程は1960年より3月15日付となっています。

また、学部においては9月15日付の9月卒業、大学院修士課程においては9月15日付の9月修了（1984年以前は10月修了）があります。

⑦学科、専攻、専修名は、正確にご記入ください。

⑧大学院の修士課程・前期課程および博士課程・後期課程の記入欄は、学部までとは別に所定の欄を設けてありますので、ご注意ください。（該当の課程の名称を○で囲んでください。）

なお、早稲田大学大学院では、次のように課程の名称が変遷しています。下記により在学中に名称が変わった場合には、修了・退学の時点の名称になります。

早稲田大学大学院課程名称の変遷

戦後の新制度 ～ 1976年3月	修士課程と博士課程
1976年4月 ～ 1985年3月	博士前期課程と博士後期課程
1985年4月 ～ 現在	修士課程と博士後期課程

また、博士課程・博士後期課程で、年度途中で退学届を提出した場合を除き、学位を取得せずに大学を退学した場合は、一般的には3月31日付退学となります。

⑨博士学位名は、受領が1991年6月までが『○○博士』、それ以降は『博士（○○）』となります。

⑥「職歴」欄

①他の大学や学校で講師をされている場合は、専任・非常勤の区別を明確にご記入ください。企業・研究所等に勤務されている場合は、その役職名・肩書等を明記願います。

②他の大学・学校・企業等をすでに退職されている場合は、その退職年月日を明記願います。

③現職の欄には、複数の大学や学校、研究所等に勤務されている場合は、代表的な現職をご記入ください。退職の予定が決まっている場合は、終了（退職）年月日欄に退職予定年月日を明記願います。現職が常勤で本学の常勤に就任される場合は、本学就任時に退職予定かどうかを明記願います。

④助手の方の学外兼職は原則として禁止されていますが、助手退任後に他大学の教員になるためには、前もって非常勤講師に就任している方が採用されやすいという実情を考慮して、次のような申し合わせに基づいて兼職を認めています。

1)職務の内容が本大学助手としての本務に支障をきたさず、かつ、社会的にみて大学の品位をおとしめるものでないこと。

2)本務と特別の利害関係発生の恐れがないこと。

3)授業担任時間が週4時間以内であること。

4)学術院教授会、研究所もしくはセンターの管理委員会、演劇博物館または博物館協議員会が適当であると認めたものであること。

従って、助手の新規嘱任に際してすでに他大学等の非常勤講師に就任している場合、職歴欄には、その職名を記入し、助手就任前に退職する場合には退職予定年月日を明記、助手就任後も引き続き就任する場合には週当たりの授業担任時間を明記し、助手就任時または就任後速やかに学術院教授会等の承認を受けてください。

（例）○○大学非常勤講師（2006. 3. 31退職予定）

○○大学非常勤講師（週2時間担当）

⑦「専攻分野」欄

自己の研究分野を「【別紙】専攻分野一覧」より選んで、必ずご記入ください。

⑧「研究分野」欄

詳細にご記入ください。

⑨「教育研究業績」欄

⑦原則として、教育研究業績用紙2枚程度に収まる範囲内で、主要な著書・論文等をご記入ください。

①教育研究業績は、以下の順に記入してください。

- 1) 教育活動(1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)2. 作成した教科書、教材、参考書3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等4. その他教育活動上特記すべき事項)
- 2) 研究活動(1. 著書2. 修士論文・博士論文・論文3. 学会発表4. 文部科学省科研費/公的資金による研究課題(研究代表者)5. その他研究活動上特記すべき事項)
- 3) 学会等および社会における主な活動(学術賞等の受賞状況、特に海外の科学アカデミー等からの国際的学術賞の受賞があればご記入ください。)

各々の業績の書き方でご留意いただきたい点は、次のとおりです。

著 書：共著の場合は(共著)と明記していただき、題名のほかに執筆担当部分のタイトル名と担当頁を何頁～何頁までとご記入ください。ただし、表紙、奥付等に氏名が記載されている場合のみを共著とします。

論 文：査読付きの論文の場合は、(査読付)と明記してください。

共著の場合は(共著)と明記していただき、執筆担当部分がある場合には何頁～何頁までとご記入ください。また、著者名を論文に記載されている順序で全て記載してください。その際、筆頭著者の場合は(筆頭)と明記してください。

学会発表：「発行又は発表箇所」欄には、発表された学会名等をご記入ください。

国際学会の場合は(国際学会)と、招待講演の場合は(招待講演)と、基調講演の場合は(基調講演)と、査読付の場合は(査読付)と、それぞれ記載してください。

文部科学省科学研究費補助金採択課題：研究代表者として採択されたことがあれば、その種類、題目、金額等をご記入ください。

公的資金による研究課題：科研費以外の経済産業省、日本学術振興会などの公的資金による研究を代表者として実施したことがあれば、その種類、題目、金額(総交付額)等をご記入ください。

詳しくは、「教員任用履歴書」記入例をご参照ください。

以 上

早稲田大学教育総合研究所 助手応募 履歴書

No. 1

※年号はすべて西暦でご記入ください

(2011年7月1日現在)

フリガナ	ワセダ	タロウ	性別	外国人教員の 翻訳者署名
英字氏名	WASEDA	Taro	男	
氏名	姓 早稲田	名 太郎	早稲田 ・女	
生年月日	1972年9月21日37歳	国籍	日本	TEL
現住所	フリガナ シンジュクニシワセダ 〒169-0051 新宿区西早稲田1-1-1			03(3203)4141 携帯TEL 090(0123)4567
e-mail	taro@xxxxx.jp			

写真貼付

4cm×3cm

学歴 [高等学校入学以降を記入し(入学・編入学)(卒業・修了・退学)等を区分してください]			
年 月 日			入学
年 月 日	高等学校		卒業・修了・退学
1991年4月1日	機械工学科		入学・編入学
1995年3月15日	早稲田大学	理工学部 専修	卒業・修了・退学
年 月 日			入学・編入学
年 月 日			卒業・修了・退学
1995年4月1日	修士課程に該当する学歴(新制大学院修士課程・前期課程)		入学・編入学
1997年3月15日	早稲田大学大学院理工学研究科	電気工学 専攻	修了・退学
1997年4月1日	博士後期課程に該当する学歴(博士課程・後期課程)		入学・編入学
2000年3月15日	早稲田大学大学院理工学研究科	電気工学 専攻	修了・退学(満期・中途)・在学中
博士学位	取得学位名(課程・論文) 博士(工学)	受領大学 早稲田大学	受領年月日 2000年3月15日

職歴 [職歴異動の場合は入社・退社、および資格等を記入してください]		
※2013年4月1日以降に早稲田大学での職歴がある場合は、TA等アルバイトであっても必ずご記入ください。		
開始(就職)年月日	株式会社製作所 中央研究所研究員	終了(退職)年月日
2000年4月1日～		～2005年3月31日
2002年4月1日～	△△△工業大学 工学部 非常勤講師	～2004年3月31日
2005年4月1日～	株式会社製作所 中央研究所主任研究員	～2006年8月21日
2006年4月1日～	○△□大学 理工学部 非常勤講師(現在に至る)	～ 年 月 日
現職		現在に至る
2006年4月1日～	○△□大学 理工学部 非常勤講師	

専攻分野[別紙より選択] 電子・電気材料工学

研究分野[詳しく記入] 電子工学、技術ジャーナリズム、技術経営

氏名 早稲田 太郎

教 育 研 究 業 績

〔Ⅰ 教育活動(1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)2. 作成した教科書、教材、参考書 3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 4. その他教育活動上特記すべき事項)、Ⅱ 研究活動(1. 著書 2. 修士論文・博士論文・論文 3. 学会発表 4. 文部科学省科研費/公的資金による研究課題(研究代表者)5. その他研究活動上特記すべき事項)、Ⅲ 学会等および社会における主な活動、の順に記入してください〕

修士論文・博士論文・著書・論文・学会発表・科研費採択課題等の別	題 名 等	発行又は 発表年月	発行又は 発表箇所	掲載誌名等
Ⅰ 教育活動				
1. 教育内容・方法の工夫	講義「○○○」実施にあたり、現実問題に近い題材により、実践的な教育を達成。	2005. 4 より	○○大学	
	講義「○○」および講義「○○」○○の手法を演習で適用することにより実践的の教育を達成	2006. 8 より	○○大学 大学院	
	講義「○○」および講義「○○」において、オリジナルの教材を作成。	2003. 4 より	○○大学、 ○×大学	
2. 作成した教科書	○○○○○○○○○○	2004. 3	○○書店	
	○○○○○○○○○○ 分担執筆(80-100 頁)	2005. 9	○○○○	
3. 教育方法・教育実践に関する発表	報告書「○○研究集録」	2002. 3	○○県教育委員会	
Ⅱ 研究活動				
1. 著書	△△△△△△△△△△△△△△△	1995. 5	○×出版	
(共著)	△△△△△△△△(執筆担当部分のタイトル名 P100～P200 担当)	2000. 1	○△書店	
2. 修士論文	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	1988. 3	早稲田大学	
博 士 論 文	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	1993. 1	早稲田大学	
論文 (共著) (査読付)	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 早稲田太郎(筆頭)、大隈次郎、小隈花子	1994. 6	○○学会	○○○○誌
(共著)	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ P25～P30 担当 大隈次郎(筆頭)、小隈花子、早稲田太郎	1996. 9	○○社	○○○○○
	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	2003. 9	○○○○	○○○○○
学 会 発 表 (国際学会)	□□□□□□□□□□□□□□□□	1997. 10	第 9 回電子材料学会	電子材料学会報告 No. 9
(査読付)	□□□□□□□□□□□□□□□□	1998. 10	第 12 回応物学会	応物学会論文誌 No. 12
	□□□□□□□□□□□□□□□□	2002. 10	△女子大学	
4. 文部科学省科研費	基盤研究 B : □□□□□□□□□□□□□□	98-2000 年度	□□大学	500 万円
経産省□□研究助成	□□□□□□□□□□□□□□□□□□	00-03 年度	□□□大学	2,000 万円
Ⅲ 学会等および社会における主な活動				
	○×学会会員	1997. 1 から	○×学会	

※該当の無い項目は省略してください。

早稲田大学